

学校から
こんな声が
寄せられています。

生徒の抱えている課題が複雑化してきていて、どのように対応したらよいか自信がもてない。

誰かに相談したいが、誰にどのように相談したらいいのかが分からない。



生徒の心のサインを受け止められるように、全教職員が教育相談的資質をもっと向上させる必要があると思う。

教員同士連携を取りながら生徒に対応していくことが大切だと思う。

学校全体で、一人一人の生徒を見ていくという姿勢が必要だと思うが、校内にそういう体制がない。



校内でこんな取り組みをしてみませんか？

取り組めそうなものから、一つでも実施してみましょう。

1年間の流れの例

配慮をする生徒の把握

自分の担当する授業にはどんな生徒がいるのでしょうか。年度初めには前担任との引き継ぎなどを確実に行いましょう。

事例検討会

配慮をする事例については、専門家から具体的な助言をもらうことも有効です。学年会や担当者などの小グループで行うこともできます。

学年等での共通理解

まずは学年会で共通理解を図りましょう。配慮をする生徒については養護教諭や部活動担当を交えての話し合いが有効です。

年間を通して、継続した取り組みをしていくことにより、教育相談機能が充実していきます。

生徒の個人面談

まずはクラスの一人一人と話し合う機会をもちましょう。生徒の興味・関心や夢などを聴き取ることは生徒理解を深め信頼関係を強くします。

教育相談研修会

最近の生徒の理解のしかたについて、専門家を講師に招いて研修の機会をもちましょう。ロールプレイなどの実技研修会も日々の授業に役立ちます。



保護者面談

学校での様子を伝えるだけでなく、保護者から家庭での様子などをよく聞いてみましょう。生徒理解のためには、保護者との連携が大切です。

